



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

日本人の歯並び

矯正歯科 科長 中納 治久

2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、期待に胸を膨らませている人も多いのではないのでしょうか。オリンピック招致委員会が発表した経済効果は高く、日本全体が前向きな気持ちになったようにも感じます。さらに、都市整備が進めば、東京の都市としての魅力も向上するでしょう。また、世界中から来る人々と触れ合う機会も増え、国際化がさらに進むと考えられます。世界中からくるお客さんと会話を楽しんだり、「おもてなし」を披露する絶好のチャンスです。

では、日本人の歯並びは外国人からどのように見られているのでしょうか。日本に住む外国人を対象に行った「2012年、日本人の歯並びに対する意識調査」では、83%が「歯並びは笑顔の魅力に関わる」としながらも、76%と多くの外国人が、日本人の歯並びを悪いと感じていました。ビジネスを含む様々な場面において、笑顔は丁寧で親切な返答で好印象を与えると考えると残念です。

「八重歯」は、食べ物が詰まり、歯みがきがしづらく、むし歯や歯周病になり易く、不正咬合をまねいたりとかなり問題です。よく言われることですが、世界的に見て八重歯が可愛いというのは、恐らくは日本だけ。欧米では吸血鬼のような歯(ヴァンパイア・ティース)とか「魔女の歯」、中国でも「虎の歯」として好印象とは捕えられていません。「出っ歯」は、自然と口が開いてしまうことから、口呼吸になりやすく、口腔内が乾燥し細菌が繁殖することで歯肉炎や口臭の原因になることもあります。さらに、出っ歯を気にして口元を隠すようになったり、人前で笑わなくなるといったコミュニケーション力の低下が見られる場合もあるでしょう。「受け口」は「しゃくれ」とも呼ばれますが、正式

には反対咬合や下顎前突といえます。食事の際に上手に噛めない、滑舌が悪く発音しづらいなど弊害もあり、日常生活に支障が生じます。年をとって歯が悪くなったときに、最も歯科治療を行いづらいかみ合わせの一つです。



最後に「開咬」です。特に多いのが、上下の歯を噛み合わせた時に、前歯が離開する前歯部開咬です。指しゃぶり、口呼吸、舌を突出する癖(タングスラスト)等が原因であることが多く、咀嚼障害や発音障害を起こします。前歯部開咬は、奥歯で噛んでも前歯が当たらないため、前歯で物を噛めません。開咬は、かみ合わせが悪いのにもかかわらず歯並びは良いことも多いため、発見が遅れやすい不正咬合です。

歯並びは一生ものです。歯並びは、虫歯や歯周病を始め、全身の健康問題に大きく影響します。将来まで永く歯を使い続けるためにも、ぜひ自分の歯並び・かみ合わせに関心を持ってください。



【八重歯】



【受け口】



【出っ歯】



【開咬】

矯正歯科 紹介

矯正治療は、不自然な位置にある歯やあごの骨を整えて美しい歯並びや正しいかみ合わせや、さらにバランスのとれた口元を作り出すことです。きれいな歯並びは、むし歯や歯周病の予防、歯をぶつけてしまうリスクの軽減などにつながり、将来にわたってお口の健康維持に貢献します。

患者さまそれぞれで歯並びに関する悩みは異なります。それぞれの患者さまに、より最適な治療内容を決定するために先進的な検査機器を役立てております。また、矯正装置も透明な装置や目立たない装置など患者さまが満足していただけるものを選択するよう努めております。当科ホームページでもご紹介させていただいておりますので是非、ご覧ください。



<http://www.ortho-showa.com/>

上あごや下あごに大きさや形、位置などのズレ、歪みによって、顔面の変形と、かみ合わせの異常を起こしている顎変形症の治療ではレントゲン、筋電図波形、顎運動解析などから総合的評価を口腔外科などとのチーム医療により検討し、ご希望にこたえる治療方針を提示し、インフォームドコンセント後、治療を行っています。

口唇口蓋裂の治療では形成外科、口腔外科、矯正歯科、小児歯科、言語、補綴科などで構成される昭和大学口蓋裂診療班により医学部・歯学部を同じ大学内に擁する昭和大学ならではの密接した総合的チーム医療で、高い評価を受けております。当病院は、顎変形症、口唇口蓋裂や特定の疾患については、指定自立支援医療機関であるとともに、顎口腔機能診断料算定の施設基準を満たしており、健康保険の適用が可能となりますので初診相談担当医とご相談されてみてください。

初診相談では患者さまひとりひとりの症状やお困りのこと、費用などに対して丁寧に説明させていただいております。当病院は、指定自立支援医療機関であるとともに、顎口腔機能診断料算定の施設基準を満たしており、顎変形症、口唇口蓋裂や特定の疾患については、健康保険の適用が可能となりますのでご相談されてみてください。受付は平日9時から午後3時まで、土曜日は9時から10時半までとなっております。ご予約の必要はございません。また、紹介状をお持ちでない方も速やかにご相談いただけます。矯正歯科は歯科病院の5階にございます。エレベーターを降りて左手に矯正歯科受付があります。当科ではその日の初診相談担当医が迅速に対応させていただいております。どうぞご遠慮なくご相談ください。

矯正歯科 医局長 山口 徹太郎



歯科医療最前線:「嚥下造影検査における検査時状況画像、嚥下時産生音の同時記録システム」

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

摂食・嚥下障害の診断には嚥下造影検査(VF検査)という透視画像検査が行われています。

しかし、臨床現場で嚥下障害を診断する際に必要な生体情報—患者の姿勢、意識レベル、表情や意欲、摂食運動(一口量や摂取ペースなど)、発声、呼吸音、嚥下音、むせなどの情報—が、欠落していることがVF検査の大きな欠点でした。

VF画像は透視画像であるために被写体の状態を推定することは極めて困難です(写真1-3)。

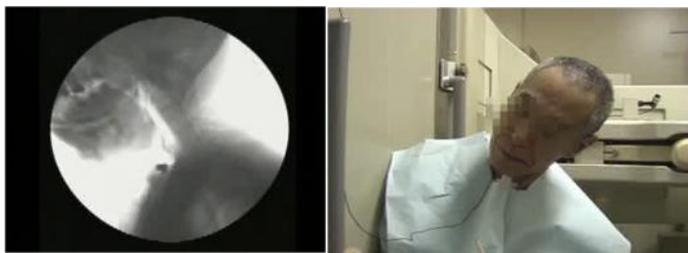


写真1 VF画像(左)と写真2 VF検査時の姿勢(右)
VF画像単独からは健側傾斜と回旋姿勢のコンビネーション姿勢を正確に判断することはできません。

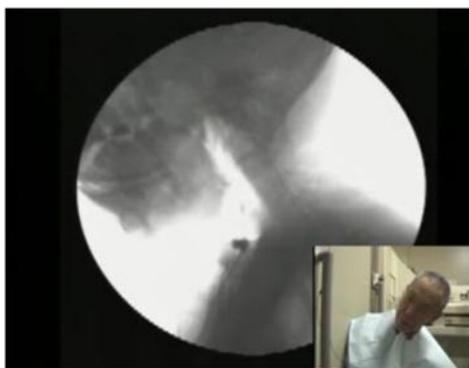


写真3 VF画像と検査時状況画像を組み合わせることにより、検査時状況を臨床現場で正確に再現することが可能となります。

この欠点を補うべく検査時状況画像と嚥下音、呼吸音の音響情報、VF画像を同時に記録するシステム(図1)が本年4月から当院歯科放射線科で稼働するようになりました。本システムではVF画像と検査時状況画像の大きさの比率を任意に変えることができるのが特徴(写真4、5)で、このシステムにより検査時の状況を臨床現場で正確に再現することが可能となりました。なお本システムで

記録された情報は連携医療機関や患者さんのご自宅でも活用されています。

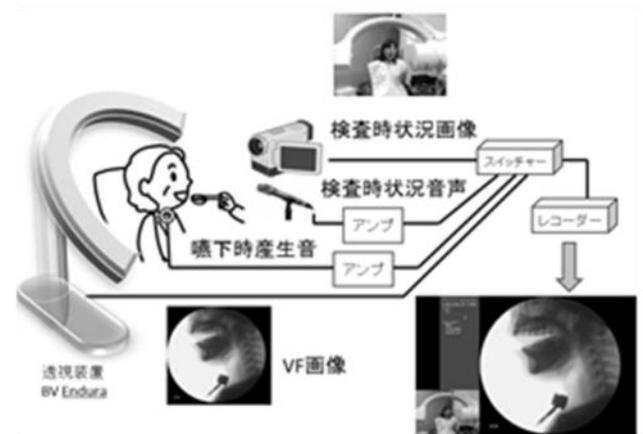


図1. 検査時状況画像と音響情報、VF画像の同時記録システム



写真4. 5 本システムでは、検査時状況画像とVF画像の大きさの比率を任意に変えられる(左右)。矢印はマイクロフォン。(左下端は医局員)

また、当科の摂食・嚥下診療を見学するために全国各地から医療関係者が来られますが、本システムと同様なシステムの導入を検討する医療機関が増えつつあります。

臨床病理検査室 紹介

長い間「中検」と呼ばれておりました中央検査室は、昨年「臨床病理検査室」と所属名が変わりました。そして場所も地下2階から1階内科の隣にお引っ越ししました。

当院は大学病院という性質上、基礎疾患があるために一般の歯科医院では治療が困難な患者さんが多く受診されます。歯科治療に直接関わることが少ない臨床検査ですが、血液や尿検査、心電図検査などの検査を通じて患者さんの状態を把握することが可能となります。また全身麻酔で行う処置や

手術の前にも全身状態を把握するために、臨床病理検査室では患者さんの採血採尿を行い、心電図や呼吸機能などの生理機能検査を行っています。

また、針刺しなどの血液・体液暴露が起こった場合の感染症検査対応も行っています。

今まで臨床検査技師2名で業務しておりましたが本年度から1名となり、生理機能を含む検査は予約制となりました。患者さんをお待たせしないため、関係各位のご協力をお願いいたします。

臨床病理検査室 和久田 梨香

ご挨拶 総合内科



平成25年10月より昭和大学病院呼吸器・アレルギー内科から当院総合内科へ赴任いたしました安藤浩一です。

大学病院では主として肺がんの患者さんの診療を、過去に出向した病院では気管支喘息やCOPD、呼吸器感染症や間質性肺炎など呼吸器疾患の患者さんの診療を中心に行ってまい

りました。

現在は井上教授の御指導の下に総合内科の外来診療を行っており、睡眠時無呼吸症候群や禁煙相談などにも適宜対応しております。

皆様のお役に立てるよう努力していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

総合内科 医局長 安藤 浩一

ご挨拶 歯科衛生室 責任者



平成25年10月1日より歯科衛生室責任者となりました鈴木恵美です。どうぞ宜しくお願い致します。

現在歯科衛生室には、関連病院勤務者も含め42名の歯科衛生士が在室しております。歯科医師の指示のもと、患者さんのQOL向上に貢献し満足いただける診療を提

供できるよう日々業務に励んでおります。

今後も、患者さん中心のチーム医療の実践、そして患者さんやそのご家族の皆様が安心して笑顔で歯科受診できますよう、歯科衛生士一同、一丸となり努力していきますので、更なる皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

歯科衛生室 責任者 鈴木 恵美

編集後記

10月上旬まで30度近い残暑が続いていると思ったら台風26号が16日に関東を直撃しました。目黒線などもストップし、交通機関は大混乱。そんな中でも、歯科病院での治療のために受診して下さいました皆様に感謝致します。

台風一過の後にはようやく秋晴れにふさわしい日々を迎えていますが、なんと南の海には台風27号が発生、またもや日本列島に向かっていくとのこと。ご用心ご用心。。。

台風26号で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

(K.T)